

---

# 蒼き乙女の囁

NODFG

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蒼き乙女の囁

### 【Nコード】

N4968V

### 【作者名】

NODFG

### 【あらすじ】

「彼」はその日、確かに命を終えた。  
しかし、気が付くと「彼女」として生きていた――  
「彼女」は異世界で何を感じ、何を見るのか。  
今、魔法と少女たちの物語が始まる。

月1更新の予定です…

## さいしょの嘶（前書き）

更新の優先度は

まどマギ＞ネギま の予定です。

気が向いたら読んでやって下さい。

## さいしよの嘶

外部からの情報入力を確認

接続解析

不正な接続と判定

内部記憶媒体への接続を遮断

外部記憶媒体への情報複製を開始

作業失敗

内部記憶媒体の情報改竄を認識

停止処理開始

作業失敗

異常処理を認識

緊急 停止処理を実行

作業 敗

作業領 の急速な消 を確認

未 認情報を 識

内部 憶媒体との接 不可

思考回 停止

作 失敗

停止

作業 敗

失

敗

致 的損傷

識

不可

停

失

……目覚めれば、其処は昏い世界だった。

何故自分が生きているのか、と暫し自問自答する。

自分は確か、前世（と呼べるものだったか）で一度、確実に死んだはずだ。

死因は、若年性のガン。

数多く、とはいかなかったが友人たちと、家族に見送られて息を引き取ったはずだ。

その自分が、何故——？

疑問は、尽きない。

しかし、このまま此処に居ては不味い

そう、ナニカが訴える。

ソレは、本能とも勘とも言えない、言わば第六感と言えば良いのだろうか？

生前の自分では確実に感じなかったであろう新たな感覚。

何故だか今は、それに従うべきだ——

そう、感じた。

重い体を起こす。

今まで闇に紛れてよく見えなかったが、やはりと言うべきか、生前の姿とは異なる姿だった。

まず、鈍いのだ。

全身がまるで鉛にでもなったかのような倦怠感。

例えるならば、錆び切った歯車を動かすかのような。

そして、これが最も重要な事なのだが…

下腹部に感じられないのだ。生前、多大にお世話になった物が。

何ということだろうか。病床の身であったために、そのような小説は数多く読んできた。

即ち、「転生or憑依もの、かつTS」という物を。

試しに、だ。

試しに自分が今陥っている状況から、自分が転生、または憑依したとしよう。

いや、転生という選択肢では無さそうだ。

見る限り肉体年齢は12歳程度。

意識のみが覚醒したと仮定しても、その時期としては遅すぎる。

やはり憑依とみて進めるべきだろう。

次に、だ。

もし憑依だとして、最優先で行うべき事は、現在の自分の状況を把握することだろう。

試しに、部屋の扉を開いてみる。

「何てことだ…」

思わず呟いてしまった自分を誰が責めよう。

その扉には、幾重にも鎖が巻きつけられていた。

それにしても、自分の口からあのような声が出るとは…

生前では聞いたことの無いような、美しいソプラノボイス。

自分が男だったら惚れてしまいそうな程…

いや、話を戻そう。

今分かったのは、自分が憑依したと考えられるこの人物は、恐らく幽閉されているという何ともありがたい事実だった。

「くそっ…他に出口は…？」

扉とは逆の棚を調べる。

恐らく本棚であろう棚には、どうやら地図のような本が置いてあった。

「あれ…文字が読めている？」

そう、今試しにその本を開いてみると、一部ではあるが文字が読めたのだ。

それならば…と、集中して何か記憶が残っていないかどうかを確かめる。

しかし、期待していたようなものは発見できなかった。

ならば何故文字の記憶だけが…、と疑問も残るが、それは後に回すことにした。

「んっ…、アリ…ア…ドネ…？」

アリアドネ…？何処かの地名だろうか？

もしくは注釈として書かれた物が…

「駄目だ、分からない…」

本を閉じる。

気付かなかったが、表紙には「ムンドウス・マギクス」という文字が書いてあったようだ。

「ムンドウス・マギクス…、それがこの国の名前か？」

少し気になったが、結局その本は棚に戻した。

他に何か無いか探してみたが、結局数冊の本と手鏡しか見つからなかった。

「手鏡か…」

目が覚めてから今まで気になってはいたが、敢えて無視していた一つの事がある。

それは、「自分の顔が、どのような顔なのか」だ。

体については自分の目でも確認できたが、如何せん顔については確認できない。

ちなみに体は、目測だが身長140cm程度、そして年の割に膨らんでいる胸部。

大きさは…、C程度か？

服装はそれなりに整っていた、が着古された雰囲気がある。

それはそれとして…

顔である。

とにかく顔である。

これはかなり重要な事である。

生前は、地味な顔つきだとよく友人に言われたものだ。

もう少し、俗に言うイケメンな顔であつたら、死ぬ前に彼女の一人くらい出来ただろうか？

まあ昔の事は置いておいて…

鏡を見してみる。

「OH…」

其処には、超、が付くほどの美少女が居た。

まるで絹のようにしっとりとしたブロンドの髪。

宝石のように美しい蒼の瞳。

そして何か小動物のような雰囲気醸し出す顔の造形。

「勝ったっ…！ 勝ったんだっ…！」

何に勝った訳でも無いのだが、思わず呟いた。

ああ神よ、貴方に感謝を…

いやいや駄目だ、いつまでもトリップしている訳にはいかない。  
ここから出る方法を考えなければ…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4968v/>

---

蒼き乙女の囁

2011年10月9日03時52分発行